

消化器外科



診療科動画



診療科 HP



1. スタッフ

診療科長(准教授) 宮本 裕士
教授 1 名(病院長 馬場 秀夫)
特任准教授 2 名、講師 1 名、診療
講師 3 名、助教 2 名、特任助教 6
名、医員 8 名

2. 診療科の特徴、診療内容

当科の診療の中心は、消化器悪性疾患を中心に、外科治療を主体とした集学的治療を行っている。ロボット手術による低侵襲手術を全ての臓器で導入しており、根治性、臓器機能温存を最大限に考慮した手術を行っている。また、高難度手術やハイリスク症例に対する高度な専門診療・集中治療を提供している。

食道癌・胃癌・大腸癌に対しては、進行度に応じて、内視鏡的粘膜切除術や腹腔鏡下手術、腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除(LECS)、ロボット手術などの低侵襲手術から他臓器合併切除をともなう拡大手術まで幅広く行っている。さらに、適応を選別し、化学療法や放射線療法を組み合わせた集学的治療を行っている。

肝癌の治療では、癌の進行度と肝予備能を照らし合わせて肝切除術、局所凝固療法、肝動脈化学塞栓療法、分子標的治療などの治療法を適切に選択し、良好な治療成績をあげている。膵・胆道癌の治療では、周術期化学療法を組み合わせ、手術不能例に対する conversion surgery を積極的に行い、治療成績の向上に努めている。最近では腹腔鏡下、ロボット支援下膵切除など低侵襲手術も積極的に行っている。

国際的、国内の治験、臨床試験に積極的に参加し、新規治療の提供とあらたなエビデンスの構築に貢献している。

3. 診療体制

○外来診療体制

月) 食道・胃・肝・胆・膵 火) 肝・胆・膵
水) 食道・胃・大腸 木) 肝・胆・膵
金) 胃・大腸・肝・胆・膵

○病棟診療体制

月 木 金) 8:00~ 火) 7:45~カンファ 8:30~手術、検査
水) 7:45~カンファ 8:30~総回診、手術・検査

4. 診療実績

○主な疾患別の患者数(入院患者延べ人数 1,813 例)

食道がん 472 件、食道胃接合部がん 46 件、胃がん 102 件、消化管間質腫瘍(GIST) 15 件、結腸がん 163 件、直腸がん 105 件、肝がん 106 件、転移性肝がん 36 件、膵癌 187 件、胆道がん 196 件、十二指腸・小腸がん 24 件、その他 408 件

○手術の件数等 合計 844 例

食道癌 72 例、胃癌 49 例、胃 GIST 12 例、D-LECS 9 例、結腸癌 91 例、直腸癌 57 例、肝がん 62 例、転移性肝がん 41 例、膵がん 79 例、胆道がん 48 例、その他 326 例

○主要な疾患の治療実績(成績)(5 年生存率)

食道癌(Stage I, II, III, IV) 77%, 64%, 47%, 37%
胃癌(Stage I, II, III, IV) 97%, 74%, 58%, 15%
大腸癌(Stage I, II, III, IV) 93%, 91%, 84%, 29%
肝細胞癌(Stage I, II, III, IVA) 84%, 84%, 61%, 43%
膵癌(Stage I, II, III, IV) 52%, 26%, 0%, 0%
胆道癌(Stage I, II, III, IV) 85%, 46%, 18%, 0%

5. 高度先進的な医療の取組

＜先進医療の承認状況＞

- ・ 治癒切除後病理学的 Stage I/II/III 小腸腺癌に対する術後化学療法に関するランダム化比較第 III 相試験(JCOG1502C)

6. 臨床試験・治験の取組

【令和 5 年度 臨床試験】(一部抜粋)

- ・ Clinical-T1bNOM0 食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験(JCOG1904)
- ・ 臨床病期 I-IVA (T4 を除く) 胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験(JCOG2013)
- ・ 術前化学療法後に根治手術が行われ病理学的完全奏効とならなかった食道扁平上皮癌における術後無治療/ニボルマブ療法/S-1 療法のランダム化比較第 III 相試験(JCOG2206)
- ・ 食道胃接合部腺癌に対する DOS or FLOT を用いた術前化学療法のランダム化第 II/III 相試験(JCOG2203)
- ・ 術後補助化学療法中または終了後早期に再発した胃癌に対する CapeOX + ニボルマブ療法の第 II 相試験(JACC GC-11)
- ・ 下部直腸癌に対する total neoadjuvant therapy (TNT) および watch and wait strategy の第 II/III 相単群検証的試験(JCOG2010)
- ・ 局所進行直腸癌に対する術前治療としての短期放射線療法と CAPOX 及び短期放射線療法と CAPOXIRI の多施設共同ランダム化第 III 相試験(ENSEMBLE)
- ・ 臨床病期 III の下部直腸癌に対する Total neoadjuvant therapy (TNT) および選択的側方リンパ節郭清の意義に関するランダム化比較第 III 相試験(JCOG2207)
- ・ 結腸・直腸癌遠隔転移治癒切除後の ctDNA 陽性患者を対象として mFOLFOXIRI + Bevacizumab 療法と mFOLFOX6 療法の有効性を比較するランダム化第 II 相試験(AURORA)

- ・「再発リスク因子」を有する StageII 大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関するランダム化第 III 相比較試験 (JCOG1805)
- ・切除可能な局所高度進行結腸癌に対する術前 mFOLFOX6 療法と術前 FOLFOXIRI 療法のランダム化第 II 相試験 (JCOG2006)
- ・直腸癌局所再発に対する術前化学放射線療法の意義に関するランダム化比較第 III 相試験 (JCOG1801)
- ・切除不能進行・再発大腸癌に対する二次化学療法における FOLFIRI 療法と併用する VEGF 阻害薬 (ベバシズマブ、ラムシルマブ、アフリベルセプト) の選択に有用なバイオマーカーを探索するランダム化第 II 相試験 (JCOG2004)
- ・切除不能大腸癌に対するトリフルリジン・チピラシル (FTD/TPI) +ベバシズマブ (BEV) の従来法と隔週法の実用的ランダム化第 III 相試験 (PRABITAS)
- ・腹腔洗浄細胞診陽性膀胱癌に対する全身化学療法の有効性を検証するための多施設共同第 II 相試験
- ・切除不能または再発胆道癌を対象としたゲムシタビン+シスプラチン+S-1 (GCS) 療法とゲムシタビン+シスプラチン+免疫チェックポイント阻害薬 (GC+免疫チェックポイント阻害薬) 療法のランダム化比較第 III 相試験 (YOTSUBA)

【令和 5 年度 治験】(一部抜粋)

- ・局所進行切除不能食道扁平上皮癌患者を対象とした、デュルバルマブと根治的化学放射線療法との同時併用を検討する第 III 相ランダム化二重盲検プラセボ対照国際共同多施設共同試験 (KUNLUN)
- ・進行固形がん患者を対象とした AB122 プラットフォーム試験
- ・HER2 陽性の切除不能な局所進行性または転移性胃食道腺癌 (GEA) 患者を対象としたチスレリズマブ併用又は非併用下で化学療法と組合わせた zanidatamab の無作為化、多施設共同、第 III 相試験
- ・進行性の消化管間質腫瘍患者を対象とする TAS-116 (ピミテスピン) のイマチニブ併用の臨床第 1 相試験
- ・切除可能な遠隔転移を有する結腸・直腸癌患者を対象とした LUNAR-1 の有用性を検討する医師主導治験
- ・BRAF V600E 変異を有する切除可能大腸癌遠隔転移患者に対する周術期化学療法としてのエンコラフェニブ+ビニメチニブ+セツキシマブ併用療法の有効性及び安全性を評価する多施設共同第 II 相臨床試験

7. 地域医療への貢献

関連病院および開業医と密に連絡を取ることにより、高次医療機関として常に患者様を受け入れることが出来る体制を整えている。その一環として、直接当直医に連絡が取れるホットラインを導入している。また、積極的に市民公開講座を開催し、市民の皆様へ外科治療の進歩と向上する治療成績について講演している。さらに、医師不足である地方病院へ、医師を派遣することで地域医療を支えている。

8. 医療人教育の取組

・ 卒後臨床教育の取組

臨床では、研修医一人一人に上級医が付き、周術期管理や外科手技の指導を行っている。抄読会や輪読会、ガイドラインの講義を行い、最新の知識の習得に努めている。また、ドライラボやアニマルラボトレーニングなどを定期的に開催し、技術教育に取り組み、次世代の内視鏡外科医の育成にも努めている。さらに、学会での発表や論文作成の指導を行っている。

・ 専門医取得のための支援

消化器外科学領域および癌治療の専門医を育成するために、県内外 50 余りの関連施設と連携をとり、専門医取得を推進している。

・ 認定施設取得

日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度修練施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設 (A 施設)
日本臨床腫瘍学会専門医研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本食道学会食道外科専門医認定施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本胆道学会認定指導医制度指導施設

9. 研究活動

I. 外科一般 に関する研究

- ・ 消化器癌の発育・進展に関与する遺伝子発現制御機構の解明
- ・ 消化器癌における cancer stem cell 研究
- ・ Warburg 効果に着目したがんの代謝システム制御機構の解明
- ・ 腸内細菌層 microbiome をターゲットとした消化器癌に対する新たな治療戦略の開発
- ・ 消化器癌におけるエピジェネティクス制御機構と癌進展における役割の解明

II. 消化管に関する研究

- ・ 消化管癌化学療法効果予測因子の探索と臨床応用
- ・ 消化器癌進展における癌関連繊維芽細胞の役割の解明
- ・ 胃癌腹膜播腫モデルの開発と予防的治療戦略

III. 肝胆膵に関する研究

- ・ 肝細胞癌の免疫チェックポイント機構の解明
- ・ 肝細胞癌における増殖・浸潤メカニズムの解明
- ・ RFA 後の再発危険因子と再発機序の解明
- ・ 画像解析ソフトを用いた機能的肝再生の研究
- ・ Gene signature を用いた肝細胞癌再発予測・再発予防の研究
- ・ 膵臓癌の発癌モデルの開発と浸潤転移機序の解析に関する研究